

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第6回研究委員会 議事録（案）

1. 日 時：2013年8月1日(木) 15:00～17:00
2. 場 所：株式会社奥村組 東京本社 9階 902会議室
3. 出席者：甲斐，後藤，佐藤(記)，高田，仲村，久田，堀，真船，柳原，山田，山本
4. 資 料：
 - 資料 6- 1 第6回研究委員会 議事次第
 - 資料 6- 2 第5回研究委員会 議事録（案）
 - 資料 6- 3 避難シミュレーションマニュアル（案）
 - 資料 6- 4 第5回避難の課題の調査・分析部会（都市避難部会）議事録（案）
 - 資料 6- 5 津波避難実態調査資料収集分析部会 作業報告
 - 資料 6- 6 第3回国際交流 WG/JAEE 避難委員会 議事録
 - 資料 6- 7 2013JAEE 年次大会でのオーガナイズドセッション企画について
 - 資料 6- 8 避難の研究委員会の OUTPUT
5. 議事内容
 - 5.1. 議事確認(山本幹事長)
 - ・第5回研究委員会の議事録の確認を行った。特に修正意見なく承認された。
 - 5.2. 新メンバー自己紹介
 - ・新規参加者なしのため省略
 - 5.3. 講演「津波避難シミュレーションの Verification と Validation について」（堀委員）
 - ・以下の質疑があった。
 - ・ **Validation** を石巻の複雑なモデルで実施することは難しいのではないか。
→簡略化したモデルで実施する予定である
 - ・ 実施スケジュールは。
→秋頃から実施する予定である。
 - ・ できるだけ多くの機関や研究者に取組んで頂けるよう工夫が必要
→マニュアルを公開し、各機関が作成されたシミュレーションプログラムの品質保証に役立てて頂けるよう考えている。

- ・現在市販されているプログラムのV&Vは終わっていると考えてよいのか。
→終了していると考えてよいだろう

5.4. 各部会の中間報告

(1)避難シミュレーション部会

- ・堀委員より、口頭で作業状況の報告がなされた。
- ・若干の修正の余地は残されているが、マニュアルが概ね完成した段階である。一昨日に後藤委員長より石巻のモデル原型を受領した。
- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・シミュレーションの規模はどの程度を想定しているか。
→5千～6千程度。車と人が半々程度である。
 - ・門脇小学校は標高が低く、危険と感じた人は最初から高台に逃げている。そのような人間の意識をどのように反映できるか。
 - ・地震直後から時間が経つにつれて道路の混雑状況が変わってくる（渋滞が発生してくる）。このような状況の反映も必要ではないか。
 - ・渋滞の再現は通過交通の影響が大きいので、再現することは難しいかもしれない。
 - ・最初から実績を対象としたケースではなく、非常に簡単なモデルから段階的に実施していった方がよいのではないか。
 - ・徒歩避難と車避難の両方をモデル化対象としているが、それらのインタラクションをどのように考えるか。
→それぞれ個別に考える方針である。
→目的は「なんちゃってシミュレーション」を排除することであり、実態との定量的な評価は倍半分程度が目安と考えている。
 - ・シミュレーションの成果を石巻の方々に見て頂き、検証する機会を作ることも必要だと思う。

(2)都市避難部会

- ・久田委員より、資料 6-4 による報告があった。
- ・部会より 1 名、論文特集号の編集委員を選定頂く。

(3)津波避難実態調査部会

- ・佐藤委員より、資料 6-5 による報告があった。
- ・以下の意見、質疑があった。
 - ・中土佐町を対象とするのであれば、自主防災組織より役場にお問い合わせの方が良いと思われる。

- ・中土佐町は津波対策として高台移転が進められてきているが、高齢者は移転が進まず、低地に取り残されている状況である。
- ・低地部に市場等の観光資源が集中しており、観光客の避難も考えていく必要がある。
- ・WS において部会としてどのような情報が提供でき、町にとってどのようなメリットがあるか明確にする必要がある。
- ・甲斐委員を通じて自治体にアポイントを取って頂くこととし、森委員にもアドバイス等協力頂く。
- ・論文集の編集委員を決定してほしい。

(4)国際交流部会

部会員欠席のため本日は報告なし

5.5. オーガナイズドセッションについて

- ・本委員会の柱になるものであるため、積極的に取組んで頂きたい旨、後藤委員長より依頼があった。

5.6. マイクスピーカーの購入報告

- ・Web 会議用のマイクスピーカーを委員会費用で購入した。当面は仲村委員が保管するため、使用の場合は仲村先生に連絡を取ること。
- ・昨年度の段階では備品購入は無理であったが、会議費節約のため OK がでた。(研究委員会の予算から出すことが条件)

5.7. 震災対策技術展への応募について

- ・後藤委員長より震災対策技術展への応募と企画案について説明があった。
- ・関西圏・中京圏の話を横浜でも、聴衆はピンとこない可能性があるなので、これらをまとめてはどうか。
- ・津波に対する関心が大きいと思われるので、東日本大震災および海外の事例、避難解析技術について時間を取った方が良いと思う。

5.8. その他

- ・論文集特集号のキックオフミーティングを開催するよう、後藤委員長より依頼があった。
- ・3月に電子媒体を出す必要があるため、12月を目途に査読を終える必要がある。

以上